救出したヤゴたちは…

ヤゴからトンボへ

プールから救出されたヤゴは、早いものでは、１週間ほどでトンボになり飛び立ちます。

でも、トンボになるのは、夜中から明け方が多いため、なかなか見られません。みんなはちゃんと見られたかな？

朝起きたら、カーテンにトンボが止まっていたということはなかったかな？

そっと窓を開ければ、トンボたちは飛び立ち、またプールに卵を産みに来てくれるかもしれませんね。

バケツ稲に入れてみました。
（高輪幼稚園）

ミニ田んぼに放されました。
（芝浦公園）

ヤゴのお引越し

救出したヤゴは、港区内の幼稚園や小学校に配られました。

また、芝浦公園のミニ田んぼにも多くのヤゴが放されました。

きっと、何匹ものトンボが、いろいろな場所から旅立ったのでしょう。

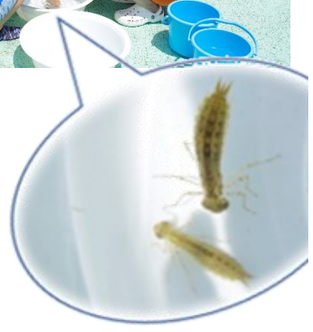
ヤゴ救出観察会

プールの中に入って
いざヤゴ取り(御成門小)

御成門小学校、芝小学校、東町小学校の3校で
プールのヤゴ救出観察会を行いました。

一れつにならんで一気につかまえるぞ！（東町小）

みんなで観察
（芝小）



今まで、プールで見られたヤゴは主に下の4種類。
救出されたヤゴの数は、年ごと、学校ごとに違ったよ。
今年はどのヤゴがたくさん見られたのかな？

▲ギンヤンマ

▲シオカラトンボ

▲アカトンボの仲間

▲イトトンボの仲間

救出したヤゴの数は…

どうして数がちがうのかな？
なぞがたくさんある！！

一番多く救出できたのはギンヤンマのヤゴでした。

東町小学校ではギンヤンマよりアカトンボの方が多く救出できました。

イトトンボと、シオカラトンボは、とても少ないね。気候などが関係あるのかな？

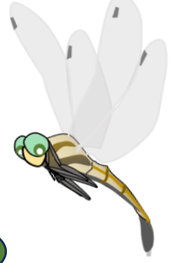
小学校/実施日 ／ ヤゴの種類	御成門 5月27日	芝 5月30日	東町 6月4日	合計
ギンヤンマ	160匹	432匹	130匹	722匹
アカトンボの仲間	0匹	4匹	346匹	350匹
イトトンボの仲間	1匹	0匹	0匹	1匹
シオカラトンボ	0匹	0匹	0匹	0匹

謎 1　シオカラトンボとイトトンボが少ないのはなぜ？

下の図をよく見比べてみよう。トンボの種類によって、卵やヤゴの時期がちがうことがわかるね…。

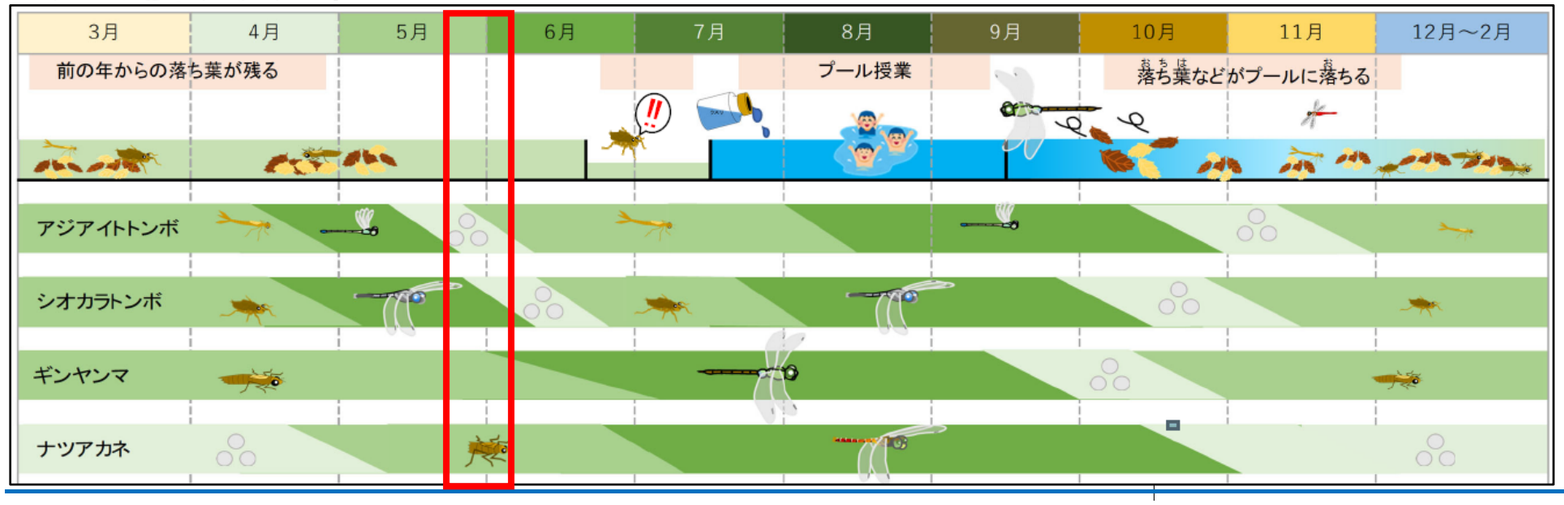
そして、シオカラトンボとアジアイトトンボ（イトトンボの仲間）は、いつごろ成虫（トンボ）が出てきているかな…。

さて、救出 観察会が行われたのはいつかな。

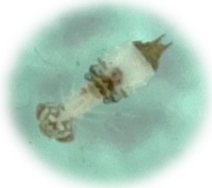


ヒント出しすぎちゃったかな。
もう、わかったよね！

プールとトンボの一年



謎 2　芝小では、いろいろな大きさのギンヤンマが救出された



ギンヤンマは、どの小学校でも、４～５㎝の大きなヤゴが救出されたよ。でも、最も沢山とれた芝小では、大きなヤゴだけではなく、小さなヤゴも見つかったんだ。

これは、なぜだろう？

大きなヤゴは、去年のプール授業が終わった後に産んだ卵から生まれたヤゴで、小さなヤゴは、今年の春先に早く大人になってしまったトンボが産みつけた卵からかえったヤゴなんだって。

一番小さなヤゴの大きさは、５㎜ほどで、卵からかえって、まだ3,4日しかたっていないということだった。

謎 3　東町小にアカトンボの仲間が多いのはなぜ？

この謎を解くのは、とても難しいね。実は、まだ答えがわかっていない。

どうしてかなって、いろいろ考えてみたよ。

①偶然だよ、偶然。

東町小だけたくさんの卵が産み付けられた。

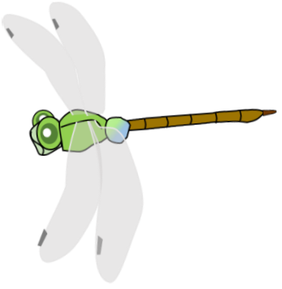
本当かどうか、アカトンボに聞いてみたいね。

②食べられてしまった。

アカトンボの仲間は、卵のままで冬を越す。春になりヤゴが生まれたときには、ギンヤンマなどのヤゴは大きくなっていて、アカトンボのヤゴはみな食べられてしまうのかもしれない。

だから、アカトンボのヤゴが多い所は、ギンヤンマのヤゴが少ないのかも！

あちゃー。もしかして
オレのせい？



学校プールのヤゴ救出観察会